

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的な状況の説明
家計動向関連 (北海道)	<input checked="" type="radio"/>	観光名所（従業員）	来客数の動き	・天候が安定していることから、連日例年を上回る利用客がみられる。夏までは、インバウンドの団体客で宿泊施設が埋まる日が多くため、国内客が減少していたが、11月に入り、国内客が増えているほか、インバウンドも様々な国や地域からの個人客が目立つようになっている。客単価も、こうした動きに伴って上昇している。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・販売量の増加にはつながっていないものの、新政権への期待感から、客の雰囲気が良くなっている、景気が上向き始めている。
	<input type="radio"/>	一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・11月はアイドルグループなどのコンサートが続いたことで、若年層の客がとても多かった。若年層は可処分所得が多く、せっかくの機会だからと土産を買うことが多いため、景気はやや良くなっている。若年層が売上を支えている状況にある。
		一般小売店（経営者）	来客数の動き	・少しずつではあるが、販売量や商談が増えてきた。
	<input type="radio"/>	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・前年に、自社の改装休業や競合店の出店があった反動で、来客数が増加している。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・11月の来客数を前年比でみると、3か月前の8月よりもやや良くなっていることから、景気は上向いている。ただし、8月については、例年よりも気温が低かったため、来客数の動きが鈍かった面がある。
	<input type="radio"/>	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・暖冬の影響で、防寒商材の稼働が非常に悪く、厳しい状況にあるものの、スーツの需要が増えている。単価の高い商材の稼働が上向いているため、手ごたえを感じている。
		衣料品専門店（エリア担当）	来客数の動き	・前年と比較すると、気温が高く、降雪も少ないものの、来客数が前年を上回っている。買物の内容をみると、ファンショナリズムの高い商材よりも実用的な冬物商材が堅調に推移しており、寒さを意識した購買行動がみられている。これから気温の低下が進み、降雪がみられるようになれば、来客数がますます増えると期待している。
	<input type="radio"/>	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・家庭向けホームルーターの販売促進、新しい通信規格に対応した端末への移行が追い風となり、全体の販売量が伸びている。地方の大型商業施設や家電量販店での臨時販売員の引き合いも増えており、人員確保の動きが夏よりも活発になっている。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フレリー〕（従業員）	来客数の動き	・天候が安定しているため、例年よりも欠航回数が減少している。
	<input type="checkbox"/>	商店街（代表者）	来客数の動き	・地域のイベントなどがほぼ終了しているため、区域内を訪れる地域住民が減っている。特に午前中は激減している。また、区域内の駐車場を確認する限り、道内他都市からのビジネス客や観光客も低調に推移している。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・11月は観光の閑散期となるが、北海道を訪れる観光客は、国内客もインバウンドも順調に推移している。ただし、冬物衣料については、1回雪が降ったものの、すぐに溶けてしまい、その後も暖かい日が続いていることから、低調に推移している。
	<input type="checkbox"/>	一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・売上についてみると、2024年比で114.4%、2023年比で129.4%、2022年比で191.2%、2021年比で300.6%、2020年比で314.2%、2019年比で172.3%となっている。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・11月に入っても前月とほとんど変化がなく、一進一退の状況で推移している。

□	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・一時期落ち込んだインバウンドの来客数は回復しているものの、地元客の日々の消費動向は停滞したままである。収入の増加が、物価の上昇率を上回るようになるまで、同様の状況が続くことになる。
□	スーパー（店長）	お客様の様子	・相変わらず客が価格の安い商品のみを購入している。
□	スーパー（店長）	来客数の動き	・自店や競合店の様子をみると、価格に対する客の反応が以前よりもシビアになっている。
□	スーパー（従業員）	単価の動き	・インフレの影響で客の動きに変化がみられない。
□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・売上は前年並みで推移しているものの、値上げ効果によるものである。来客数、買上点数は減少が続いていることから、今後が不安である。
□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・物価の上昇が続き、先行きが不透明なことから、酒やたばこなどのし好品を中心に買い控えが発生している。景気の悪い状態が続いている。
□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新型車の発売を機に販売量が上向く傾向があるものの、現状の新型車効果は今一つである。個人消費が落ち込んでいるわけではないものの、客の動きが鈍くなっている。
□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・全拠店で販売目標を達成しているものの、新車の販売量は目標を下回っており、その落ち込みを中古車で補っている状況にある。また、低金利キャンペーンを利用した販売が中心であることから、今後、低金利施策が終了したときの反動も懸念される。
□	乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・ショールームに展示車がないこともあって、来客数の減少が続いている。買換えサイクルも伸びているため、新型車が発売されても、需要は上向かないと言われる。
□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・ここ数か月、新車及び中古車の販売量が前年比で20%ほど減少しているものの、サービス部門の売上が前年比で10%ほど増加している。
□	自動車備品販売店（店長）	販売量の動き	・10月はタイヤの販売が好調で、売上も良かったものの、11月はタイヤの販売量が前年比70%、サービス部門の売上が前年比90%となり、全体売上が前年比80%と落ち込みが厳しくなっている。必需品であるタイヤの購入が一段落したこと、物価高の影響による買い控えが強まっている。
□	その他専門店〔造花〕（店長）	お客様の様子	・季節が変わることで、販売量が増加することを期待したが、季節商材の需要がそれほど高まらず、期待していたような動きがみられなかった。年を追うごとに、客が購買行動を起こすタイミングが遅くなっている。
□	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・11月の売上は、前年を僅かに下回ったものの、例年並みとなった。昼はまずまずであった一方で、夜は予約こそあるものの、客単価が低下している。観光客は、国内客もインバウンドも好調に推移しているが、いずれも客単価が低下している。国内客については、食料品の値上げの影響で外食を控えたり、米の価格が下がらないことから、パンの消費量を増やすといった動きがみられる。
□	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・11月は3連休が2回あることから、集客に期待したが、期待したほどの効果がみられず、来客数は前年を下回った。ただし、自社イベントを開催することで、減少分をカバーすることができた。
□	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・前月に引き続き、夏の猛暑の影響で、当地の主力産業の1つである農業の景気がやや悪いため、団体旅行の販売量が伸び悩んでいる。

□	タクシー運転手	来客数の動き	・タクシーの利用は天候に左右されるため、天候が良くて暖かいとタクシーの利用が少なくなる。11月は初旬に降雪があつたことから、売上がり増えると期待したが、その後は天候が良く、暖かい日が多くなったことから、タクシー1台当たりの売上は前年並みであった。一方、当社では乗務員の採用が順調で、前年よりも乗務員が20%ほど増えているため、会社の売上は前年比で20%の増加となった。
□	タクシー運転手	販売量の動き	・11月の売上が前年比97%であったことから、景気回復の兆しを感じるもの、力強さはうかがえない。消費者の消費行動を促すような経済対策を期待したい。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・インバウンドやイベント関係での来客数に変化はみられなかつた。天候の悪い日や気温の低い日、鉄道などのトラブルがあつた日に、一時的に来客数が増加するものの、それ以外の通常の日はそれほど利用客がみられなかつた。
□	タクシー運転手	販売量の動き	・例年と比較して、人の動きがやや落ち込んでいる。また、例年であれば、雪の積もり始める時期であるが、今年は降雪が少なく、いまだに自転車で外出する人が多くみられるこどマイナス要因となっている。
□	美容室（経営者）	来客数の動き	・年末を控えて、客の来店間隔が空く時期ではあるが、例年よりも予約の連絡が少ない。物価高が続いていることが影響しているとみられる。
□	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・一般住宅は引き続き不調であるものの、非住宅が堅調になっている。
□	住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・当地の土地価格や建築単価が高止まりしていることで、購入価格が客の想定を超えている。住宅ローン金利も上昇傾向にある。これらのことから、客の購入意欲が低下している。
▲	百貨店（売場主任）	単価の動き	・生活防衛意識の高まり、原価高騰による商品価格の高騰に加え、例年よりも気温が高めで推移していることもある、防寒商材の客単価が伸び悩んでいる。
▲	スーパー（役員）	お客様の様子	・夏の暑さの影響に加え、鳥インフルエンザの発生、養鶏場の火事などもあって、野菜や卵、鶏肉などの生鮮食品が値上がりしている。客からは、あらゆる物が値上がりして買物が大変だという声が聞かれる。
▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・主食である米の新米価格が上がっていることで、生活面での影響が大きくなっている。米だけでなく、たばこや酒類などの嗜好品にも影響が生じている。
▲	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・無料クーポン券に対する客の反応が強くなっている。
▲	乗用車販売店（経営者）	競争相手の様子	・中古車の販売や整備工場への入庫は比較的堅調に推移しているものの、新車の受注が前年比70%前後にとどまっている。競合店も同様の状況であり、地域全体の新車受注は前年比73%と厳しい状況にある。ここに来て、メーカーが受注停止する車種が増えていることが、要因の1つとなっている。
▲	住専門店（役員）	販売量の動き	・3か月前と比べて、売上の前年比が低下しており、客の購買動向が悪化していることがうかがえる。季節の変わり目であるにもかかわらず、冬物商材の販売量が前年から落ち込んでいることから、景気はやや悪くなっている。
▲	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・客の半数以上が高齢者であることから、年金給付のタイミングや天候の影響を受けやすい状況にある。また、天候面では、降雪よりも雨で客足が遠のく傾向がみられる。11月は雨の日が多くなったこと、年金の支給月ではなかったことから、景気はやや悪くなっている。
▲	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・閑散期に入ったことで、ホテル全体で影響を受けている。
▲	スナック（経営者）	来客数の動き	・11月に入り、景気がやや悪くなっている。ただし、首相が頑張っていることから、12月の景気は良くなると期待している。
▲	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・物価高の影響で、国内客の集客が減少している。特に道内客の動きが鈍くなっている。

	▲	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・観光の閑散期であることから、3か月前と比べると、国内客もインバウンドも旅客数が減少している。ただし、いずれも前年を上回っていることから、増加トレンドは継続している。
	▲	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・来客数の減少傾向が継続している。中国で日本への渡航自粛が呼び掛けられていることで、インバウンドによるWeb予約のキャンセルも一部発生しており、マイナス要因が重なっている状況にある。
	▲	旅行代理店（従業員）	それ以外	・例年であれば、年明け1月以降の旅行についての相談が増えてくる時期であるが、今年は相談の件数が明らかに少なくなっている。今後の景気もやや悪くなることが懸念される。
	▲	観光名所（職員）	お客様の様子	・商談のなかで、前向きな話が余り聞かれないと状況にある。
	▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・これまでパーマをしていた客がカットだけにしたり、毎月カットで来店していた客が来店頻度を2か月に1回に減らすなどの動きがみられている。特に年金生活者にそうした傾向が顕著にみられている。
	▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・来店周期が長くなっている客が増えている。
	▲	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームに来訪する客の多くが、購入予算を切り詰めており、購入したい物件と予算のかい離が大きくなっている。その結果、様子見をする客が増えている。
	×	スーパー（店長）	競争相手の様子	・寒くなり、灯油などの暖房費に金が掛かるのに加え、年末を控えて、お歳暮や正月商材に金が掛かるところから、客が消費を切り詰めている。
	×	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・インバウンドの動きが悪くなっている。
企業動向関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	司法書士	受注量や販売量の動き	・新築を中心に不動産登記業務が好調であった。同業者からも、商業登記や不動産登記で忙しくしているとの話をよく聞くため、身の回りの景気はやや良くなっている。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	取引先の様子	・人手不足、インフレの継続などの懸念事項はあるものの、国内の建設投資は堅調に推移している。
	○	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・ベース商材の動きは前年比で25%ほど減っているものの、中小物件の受注増加により、売上が伸びている。ただし、前年との比較では5%ほど下回っている。
	□	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・慢性的な高温障害により、農産物の不作がみられる。今後も、こうした傾向が続くことが懸念される。
	□	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・前年と比較して、受注量が5%ほど減少する傾向が続いている。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・民間の建築投資がやや良い一方で、公共工事は余り良くないため、全般的には景気は変わらない。
	□	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注目標を達成しており、本来であれば、景気は上向きと判断したいところだが、ここに来て、発注控えが増え始めていることから、景気は横ばいで推移となっている。
	□	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・初雪は早かったものの、本格的な降雪がまだみられていないことから、建設工事中の各現場に雪の影響は出でていない。そのため、各現場では順調に工事追い込み期を迎えており。完工高及び利益について、年度計画達成が確実となった状況に変わりはない。
	□	金融業（従業員）	取引先の様子	・依然として、売上は増加、利益は減少という企業の声が多い。また、人手不足対策や商品・製品の高付加価値化のための設備投資が必要という声はあるものの、実際に設備投資を行おうとする動きは鈍い。
	□	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・客の広告費に大きな動きがみられない。

	□	司法書士	受注量や販売量の動き	・受注量は変わらないものの、依然として物価が上昇傾向にあり、値上げが難しい業界であることから、厳しい経営状況が続いている。一方、政権交代により、ガソリンの暫定税率廃止を始め、各種政策が以前よりも良い方向に進んでいることはプラスである。ただし、その効果が出てくるのはまだ先となる。
	□	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・今後の日中関係を気に掛けている経営者が意外と多い。
	▲	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・11月の販売量は前年並みであったものの、3か月前の8月の販売量は前年比プラス10%であったことから、景気はやや悪くなっている。
	▲	金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・新築住宅の着工棟数が前年比で10%ほど減っている。さらに、建築確認申請を提出してから認可されるまでの期間が早くても2か月と非常に長くなっている、現場での作業がなかなか動いてこない状況にある。
	▲	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・当地における紙パルプの生産が堅調なことから、製品及び原材料の輸送も堅調に推移している。乳製品は、生乳の本州への輸送量が相変わらず伸びていないものの、バターや粉乳の在庫は積み上がっている。一方、今年は農産品が不調で、期待していたほどの輸送量がみられなかったことから、トレーラー全体の荷動きが鈍くなっている。
	▲	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・11月中旬以降、受注量及び見積件数が少なくなっている。
	×	—	—	—
(北海道) 雇用 関連	◎	—	—	—
	○	—	—	—
	□	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人企業数は3か月前と横ばいで推移している。一方、年末を控えて、企業が採用活動に時間を割けない様子もうかがえる。ただし、良い人材を確保したいという企業のニーズに衰えはなく、面接件数は3か月前を大きく上回っている。人材の登録数は、12月のボーナスを見込んで減少傾向にあり、年明けから転職活動を再開するものとみられる。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・季節要因を除けば、景気は3か月前と大きく変わらない。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人の掲載申込件数が伸び悩んでおり、企業の採用意欲の高まりがうかがえない状況が続いている。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比で13.3%の減少と2か月ぶりに前年を下回り、月間有効求人数は前年比で4.6%の減少となったものの、求人数の落ち込みが大きいとまではいえない状況にある。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地の10月の有効求人倍率は0.83倍であり、前年を0.01ポイント下回り、3か月連続で前年を下回った。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・物価や資材価格の高騰が常態化しているなか、最低賃金の引上げ分を価格転嫁できない中小零細企業が多くみられる。なかでも住宅建築などの建設関連企業では求人が減り続けている。今後、安定的な企業活動が行われなくなることも懸念される。
	□	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職者数が若干の増加傾向にあるものの、まだ景気に影響があるものとは判断できない。また、雇用保険受給者において、会社都合離職者に大きな増加はみられないことから、企業の景気が悪くなっている状況もうかがえない。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・求人数は増えているものの、業種間の格差が大きい状況は変わらないため、景気に大きな変化はみられない。
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・ほとんどの業界で求人件数が減っている。前月よりもその傾向が強くなっていることから、景気がやや悪くなっている。
	×	—	—	—